第１学年Ｂ組　　社会科学習指導案

日　時　平成２８年１０月２０日（木）　第３校時

児童　○○村立○○中学校　１年Ｂ組　３２名

場所　１年Ｂ組教室

実習生　鵜澤　佳代

１　単　元　名　　ヨーロッパ州国々の国境を越えて

２　単元目標と評価

（１）目標

日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の自然環境や産業、人々の生活・文化に関心をもち、地域的特色さらに、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察しEU統合による人々の生活の変化と課題について考えることできるようにする。

（２）評価規準

ア　関心・意欲・態度	イ　思考・判断・表現	ウ　観察・資料活用	エ　知識・理解
○ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観する中で、特に国家間の統合に関心を持ち、設定された学習のテーマを意欲的に追求しようとしている。 ○日常的に用いられるあいさつや、生活と深	○ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ○ヨーロッパ州の国家間の統合による変化について、背景にあった文化の共通性や	○ヨーロッパ州の交通、通勤、買い物、通貨など、統合の成果などについて、さまざまな資料から読み取れる。 ○収集した資料から、ヨーロッパ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択	○ヨーロッパ州について、小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、世界経済における地位が低下してきた様子を概観し、それぞれの基本的・基本的な知識を理解している。 ○ヨーロッパ州

く結び付いているキリスト教の習慣などから、ヨーロッパ州の文化についての関心を持とうとしている。	統合による人々の生活の変化などと関連づけて考察している。	して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。	の抱える課題についてEU統合と関連づけて理解している。

3　単元について

（１）教材について

本単元は、学習指導要領の地理的分野の内容（１）「世界の様々な地域」のウ「世界の諸地域」（イ）「ヨーロッパ」を受けて設定したものである。この単元では、学習する各州の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることをねらいとしている。つまり、この単元の学習は、州ごとの地域的特色を理解させることが目的であり、単元の早い段階で、地域的特色を理解させるために効果的な主題を設定することが重要となる。本単元で学習するヨーロッパ州は、歴史的には長い間世界をリードしてきた地域である。中でも大航海の時代と呼ばれる１６世紀から、進んだ科学技術や市民社会によっていち早く国民国家を形成したイギリスやフランスなどは国力を増大させ、政治や経済、文化といった面で世界中に影響を及ぼしてきた。その後、２０世紀に起こった２度の世界大戦を経て、世界の政治・経済の中心はアメリカ、ソ連に移った。ヨーロッパ諸国は東西の対立を経て団結を深め、世界への影響力を高めると同時に地域の平和を図るためにＥＵが結成された。

ＥＵは、見方によってはヨーロッパ諸国による、世界への影響力を高めるための試みと見ることができる。この試みは、ヨーロッパ州という比較的狭い地域であり、気候や食べ物もそれほど差異がないという地域性、いずれの国もギリシャ・ローマ文明を祖とし、キリスト教社会であるという共通性など、ヨーロッパ諸国がもつ地域的特色を生かした動きと捉えることもで

きる。また、２度の世界大戦を起こしたヨーロッパ諸国が、平和社会を実現するための一つの手段とも考えられる。現在、この ヨーロッパ諸国の地域統合による動きは、アフリカのＡＵや北米のＮＡＦＴＡ、アジア太平洋地域の ＡＰＥＣなど様々な地域に影響を与えている。こうしてみると、現在でもヨーロッパの政治は、進んだ環境への意識とともに先進性を失っていない。しかし、先進地域であるが故に、近年、地域統合の課題も多く見られるようになってきた。経済格差によるギリシャ問題、移民を積極的に受け入れてきたことによる宗教対立、またそれに伴う各国の市民による少数排斥の風潮など、様々である。

本単元では、日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の自然環境や産業、人々の生活・文化に関心をもち、地域的特色さらに、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察し、先進地域であるヨーロッパが抱える課題とその解決への動きが、自分たちアジア地域に役立つことになると考えさせ、自分のこととして捉えさせていきたいと考えている。

（２）生徒の実態

本学級の生徒は、授業中多くの意見を活発に述べる。とにかく元気な学級である。**グループごとに作業を行うときにも仲間と協力して大変意欲的である。**

ヨーロッパ州に対して、多くの生徒は料理や生活・文化などを通じて知っており、おおむね肯定的なイメージをもっている。食事はおいしく、生活 は豊かでありブランドの本場として華やかな場所と考えているため、このような肯定的な言葉が並ぶのだと考えられる。また、歴史やスポーツなどを挙げた生徒も見られ、生活や文化、スポーツといった、 中学生にとって身近な話題について、この地域に対する関心の高さが感じられる。しかし、現在のヨーロッパには欠かせない「ＥＵ」の存在についての関心は低い。現在の国際政治の報道をみると、アメリカや中国、ＡＳＥＡＮなど、日本と関係が深い国々の情報が多いものの「ＥＵ」に関連のある報道も多く、ニュースに耳を傾けていれば「ＥＵ」の言葉に触れる機会が多いはずである。また、関心があれば「ＥＵ」とはどんな組織なのかについて調べてみ

る生徒も出てくると考えられる。しかし、「ＥＵ」の組織についてイメージができている生徒は、少ない。このことから、本学級の生徒の 国際政治に対する知識は、かならずしも高くはないことがわかる。 以上のことから、本学級でヨーロッパ州について学習を進めていく際には、生徒が関心をもちやすい生活や文化といった情報を活用しながら、規模が比較的小さい国が多いながらも、複数の国がまと まることで国際的な影響力を増した「ＥＵ」について関心をもたせ、学習の意欲付けを図りたい。

４　指導計画(４時間扱い)

次	時数	主な学習活動	各時間の評価規準
1	1	○ヨーロッパ州の自然環境、農業、工業について ・雨温図を通して自然環境について読み取る。 ・地域によって異なる農業が行われていることを理解する。 ・ヨーロッパでは、歴史的に近代工業が発展してきたことを理解する。	エ　ヨーロッパ州について、小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、世界経済における地位が低下してきた様子を概観し、それぞれの基本的・基本的な知識を理解している。 ウ　資料から、ヨーロッパ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。
2	2	○ヨーロッパの文化について ・挨拶を通して、３つの言語について関心を持つ。 ・キリスト教などの共通の文化について考え、多様な民族がいるのに統合できたことに気づく。	ア　日常的に用いられるあいさつや、生活と深く結び付いているキリスト教の習慣などから、ヨーロッパ州の文化についての関心を持とうとしている。 イ　ヨーロッパ州の文化の共通性について考察してい

			る。
3	3 本 時	○ヨーロッパ州の統合について（EU） ・ヨーロッパ州が統合せれた理由、統合させて変化したことについて考える。 ・工業の変化、人々の変化について資料から読み取る。	イ　ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を考えている。 ウ　ヨーロッパ州の交通、通勤、買い物、通貨など、統合の成果などについて、様々な資料から読み取れる
4	4	○ヨーロッパ州の課題とロシア連邦のつながりについて ・EU 統合によるヨーロッパ州の抱える課題について理解する。 ・図や写真からヨーロッパ州とロシア連邦のつながりについて理解する。	エ　ヨーロッパ州の抱える課題について EU 統合と関連づけて理解している。

5　本時の指導

（1）目標

ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由を、多面的・多角的に考察し、ヨーロッパ州の交通、通勤、買い物、通貨など、統合の成果などについて、さまざまな資料から読み取ることできるようにする。

（2）展開

過程 (時配)	教師の指導	児童の活動	☆指導上の留意点　★評価
導 入 10 分	○EU 統合について興味を持たせる。 「ヨーロッパで使われている紙幣	○EU 統合について興味を持つ。 「ユーロ」	☆ユーロ紙幣を比べる時に日

	は何ですか。」 ・ユーロ紙幣、ドル紙幣を提示する。 「ドルとユーロの違いはありますか。ユーロ紙幣の共通点は何ですか。」 「ユーロ紙幣の橋は国同士のつながり、門は国が開けていることを表しています。」 「つながりあったことでなにが変わっていったのか考えていきましょう。」	・ユーロの紙幣の共通点を見つける。 「肖像画」 「門」 「橋」 ・「門」「橋」からヨーロッパの関係を理解する。	本のお金とも比較させることで、ユーロ紙幣の特徴をつかみやすくする。
展開 35 分	○課題提示 ヨーロッパでは、統合してどう変わったか考えよう。 「なぜヨーロッパは統合したのでしょうか。」 ・教科書資料３を提示する。 ・アメリカ、日本、EU を比較し、統合した利点を考えさせる。 「アメリカと日	○課題を把握する。 ○国境を超えた統合 ・教科書資料３を読み取り、統合した理由を考える。 ・統合した背景を教科書から読み取る。 「EU にするとアメリ	☆アメリカ、日本との比較を通して理由に気づかせる

	本、ヨーロッパを比較してわかることはありますか。」 ・導入と関連付け、ユーロ導入により変わったことを考えさせる。 「ユーロを導入して生活はどのように変わったか話し合ってみましょう。」 「お金だけでなく、国境がなくなったことにより変わったことについても考えてみましょう。」 ・教科書資料５を提示する。 「資料５から読み取れることは何	カと日本に対抗できる。」 ○統合の進展と人々の生活 ・グループで話し合う。 ・EU統合でユーロが導入され、人々の生活はどう変わったのか考えさせる。 「買い物が簡単になった。」 ・また、ユーロだけでなく、国境がなくなったことにより変わったことを考えさせる。 「パスポートがいらない。」 「色んなところに行きやすい。」 「違う国の学校に行ける。」 ・ 発表する。 ○工業の変化 ・教科書資料５より国境を超えた技術協力を行っていることを理解する。	☆考えが浮かばない時は、生徒自身が海外旅行に行くときのことを考えさせ、その時に国境がないとどのようなことが必要ないのか考えさせることで、移動が容易なことに気づかせる。 ★ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を考えている。【思考・判断・表現】発表・机間指導 ★ヨーロッパ州の交通、通勤、

	ですか。」 ・教科書資料６を提示する。 「資料６から読み取れることは何ですか。」	「１つの航空機を多くの国が協力して作っている。」 ・教科書資料６より、賃金の安い東ヨーロッパへ工場が移転していること読み取る。 「石炭がたくさんある。」 「工業地帯が東のほうにある。」	買い物、通貨など、統合の成果などについて、さまざまな資料から読み取れる。 【観察・資料活用】机間指導
まとめ ５分	○次回の問題提起。 「EU 統合をしていいことだけだろうか。」 「それについて次回勉強していきましょう。」	○本時のまとめをする。 ○次回の学習の把握。 ・EU 統合をしての問題について考える。	

（３） 板書計画

ヨーロッパでは、統合しどう変わったか考えよう。

ユーロ紙幣

紙幣

門、橋が描かれている。

門：国どうしが開かれ関係

橋：相互の交流

○国境を超えた統合

・アメリカ日本に対抗するため

・二度と戦争を起こさないため

○統合による人々の変化

・ユーロ紙幣導入による変化

・国境がなくなったことによる変化

○EU の工業

1980 年代　ハイテク産業

航空機の共同生産

1990 年代　工場が東ヨーロッパへ

（賃金の安さ）